

あねがわ 姉川の戦い

川が赤くそまつた日



一五七〇年、近江の国（今の滋賀県）を流れる姉川で、大きな戦いが起こりました。織田信長と徳川家康の軍が、浅井長政と朝倉義景の軍と戦ったのです。合わせて五万人をこえる大軍だったと言われています。

長政のつまは、信長の妹・お市です。ところが信長は、長政が長年お世話になってきた朝倉家をせめました。なやんだ長政は、つまの（ ）である信長をうらぎる道を選んだのです。

戦いは朝早くに始まりました。織田軍は、じん（守りの列）を十三だんにかまえて待ちうけます。ところが浅井軍はすさまじいいきおいで、十だん目まで次々とうちやぶっていききました。このこうげきは後に「姉川の十一段くずし」とよばれました。

おされる織田軍を救ったのは、家康の軍でした。横からのこうげきで流れは一気にぎやく転し、やぶれた浅井・朝倉軍はにげ去りました。戦いのあと、姉川は血で赤くそまつたと伝えられ、近くには「血原」という地名が今も残っています。そしてこの戦いの三年後、浅井家と朝倉家は、信長にほろぼされてしまうのです。

せんたく(1)

文しように合うものはどれですか？

選んで○をつけましょう。

- ① 長政は信長をうらぎって戦った
- ② お市は徳川家康の妹である
- ③ 浅井家は戦いに勝って栄えた

せんたく(2)

文しよの（ ）に入る言葉はどれですか？

選んで○をつけましょう。

- ① 父
- ② おじ
- ③ 兄

きじゅつ(1)

浅井軍のこうげきは、後に何とよばれたでしょうか？

きじゅつ(2)

織田軍を救ったのは、だれの軍でしょうか？

漢字

漢字に直して書きましょう。

(1) にわ

(2) まめ

(3) ががみ

やまざき 山崎の戦い

光秀、最期の夜



一五八二年、明智光秀は、自分がかえっていた織田信長をうらがり、京都の本能寺で信長をたおしました。そのころ羽柴秀吉（のちの豊臣秀吉）は、信長の命令で、本能寺から遠くはなれた中国地方で毛利家と戦っていました。（ ）、信長が光秀にたおされたと知った秀吉は、かたきをうつため、ものすごい速さで軍をひきかえしてきたのです。

二人の軍がぶつかったのが、京都の近くの山崎という所です。秀吉の軍はおよそ四万人に対して、光秀の軍は一万六千人ほどでした。光秀の軍は味方が集まらず、数の上で大きくおとつていました。秀吉とのほげしい戦いにやぶれた光秀は、わずかな家来とともに、夜のやみにまぎれ、自分の城の坂本城へにげました。

にげる光秀が通ったのは、小さな村の竹やぶの細い道でした。このあたりには、にげる武士をおそう村人たちがひそんでいたのです。光秀は村人の竹やりでつかれ、あっけなく命を落としました。

光秀の天下は、わずか十三日ほど。短すぎて、「三日天下」という言葉が生まれました。勝った秀吉は、次の天下人へと進んでいきます。

せんたく(1)

ぶん 文しように合うものはどれですか？

えら 選んで○をつけましょう。

- ① 光秀は山崎の戦いで勝った
- ② 光秀は竹やりでたおされた
- ③ 秀吉はゆっくりもどつてきた

せんたく(2)

ぶん 文しよの（ ）に入る言葉はどれですか？

えら 選んで○をつけましょう。

- ① ところが
- ② だから
- ③ たとえば

きじゅつ(1)

みつひで 光秀が本能寺でたおした武将はだれですか？

きじゅつ(2)

「三日天下」といわれるのは、なぜですか？

漢字

かんじ 漢字に直して書きましょう。

(1) きょこう

(2) しら

(3) せきたん

三方ヶ原の戦い

わすれない、この負け



一五七二年、武田信玄は、織田信長をたおして天下を取ろうと、二万五千人ともいわれる大軍で京都を目指しました。その道の先にあったのが、徳川家康の浜松城です。味方だった信長も助けの軍を送りましたが、徳川軍と織田軍を合わせても一万人ほどでした。

ところが武田軍は、浜松城には目もくれず、目の前を通りすぎていきます。まるで「家康など相手にするまでもない」と言わんばかりです。このまま見送れば、家来たちに笑われてしまう。ついに、家康は止められるのも聞かず、城を飛び出しました。それこそが信玄のしかけたわなだったのです。

三方ヶ原で、武田軍は徳川軍をすでに待ちかまえていました。強い騎馬隊におそわれた家康の軍は、二時間ほどでぼろぼろになってしまいました。家康はおそろしさのあまり、馬の上でうんちをもらしながらにげ帰ったと伝えられます。家来に気づかれると「これはみそだ」と言い合った、という話も残っています。

家康は、こわさでうがんだ自分の顔を絵にかかせました。二度と同じ失敗をしないためです。この負けをわすれなかった家康が、のちの天下人になるのです。

せんたく(1)

ぶんのように合うものはどれですか？

えら 選んで○をつけましょう。

- ① 家康の軍は武田軍より多かった
- ② 信玄は三方ヶ原をさけて通った
- ③ 家康は止められても城を出た

せんたく(2)

しろと城を飛び出した家康の気持ちはどうですか？

えら 選んで○をつけましょう。

- ① ゆだんしている
- ② くやしくてたまらない
- ③ ほっとしている

きじゅつ(1)

いえやす 家康の軍をおそった、武田の強い部隊は何ですか？

きじゅつ(2)

いえやす 家康は、なぜ自分の顔を絵にかかせたのですか？

漢字

かんじ 漢字に直して書きましょう。

(1) のうぎょう

(2) やね

(3) にもつ

おおさかふゆ 大坂冬の陣

豊臣家さいごの冬



一六一四年の冬、徳川家康は、大軍で大坂城を囲みました。相手は、豊臣秀吉の子・秀頼です。きつかけは豊臣家がつったお寺のかねで、そのかねには「国家安康」（国の平和をねがう言葉）という四つの文字がほられていました。家康は「名前の『家』と『康』をはなればなれにされた。失礼だ！」とおこったのです。

大坂城には、秀頼を守るために全国から十万人近い武士が集まりました。名の知られた武士も集まり、中でも有名なのが真田幸村です。幸村は城の南に「真田丸」という出丸（小さなとりで）を作って、徳川の軍を何度もはね返しました。

せめきれない家康は作戦を変え、外国の大ほうを城にうちこみました。そのたまは、秀頼の母・淀殿のいる建物の近くまで飛んできました。城内はふるえ上がり、豊臣家はついに休戦（戦いをひと休みすること）を受け入れました。

しかし休戦のじょうけんは、大坂城のほりをうめることでした。ほりは、てきが城に近づくのをふせぐ大切な守りです。ほりを失った大坂城は、もうお城を守ることができません。そして次の年の夏、ふたたび戦いが始まるのです。

せんたく(1)

ぶんしように合うものはどれですか？

選んで○をつけましょう。

- ① 秀頼は家康の子である
- ② 幸村が徳川軍をふせいだ
- ③ 家康は城をせめず帰った

せんたく(2)

幸村がつく「真田丸」とは何ですか？
選んで○をつけましょう。

- ① 大きな船
- ② 小さなとりで
- ③ 新しいお城

きじゅつ(1)

かねにほられていた四つの文字は何でしょうか？

きじゅつ(2)

休戦のじょうけんは何でしょうか？

漢字

漢字に直して書きましょう。

(1) みどり

(2) ふえ

(3) れんしゅう

姉川の戦い

せんたく ① ② ③

きじゅつ ① 姉川の十一段くずし ② 家康の軍

かん字 ① 庭 ② 豆 ③ 鏡

山崎の戦い

せんたく ① ② ①

きじゅつ ① 織田信長 ② 光秀の天下が短すぎたから

かん字 ① 漁港 ② 柱 ③ 石炭

三方ヶ原の戦い

せんたく ① ③ ②

きじゅつ ① 騎馬隊 ② 二度と同じ失敗をしないため

かん字 ① 農業 ② 屋根 ③ 荷物

大坂冬の陣

せんたく ① ② ②

きじゅつ ① 国家安康 ② 大坂城のほりをうめること

かん字 ① 緑 ② 笛 ③ 練習